

広島県立尾道北高等学校 令和2年度第3回学校運営協議会 会議録

本校の学校運営協議会を次のとおり開催した。

開催日時	令和3年2月18日(木) 15:00~16:45	開催場所	尾道北高等学校 会議室
出席委員	<p>出席委員人数：6人 委員氏名(役職)</p> <p>砂田 勝(元尾道北高等学校長)      林原 慎(福山市立大学教育学部教授) 坂本 里美(尾道市政策企画課長)      瀬戸 務(本校PTA顧問) 井上 一男(栗原中学校長) 藤本 秀穂(尾道北高等学校長) &lt;本校教職員：14人&gt;</p>		
会議の概要	<p>1 開会行事 (1) 校長挨拶 (2) 学校運営協議会会長挨拶</p> <p>2 年度末評価について(司会：副会長) (1) 評価指数(主幹教諭) ・今年度の変更点：ICTの活用、リモート集会・講演会、チューター制度、体育祭などの行事 ・評価について (2) 各部の自己評価について ア. 教育研究部 ・ 問う力、家庭学習について重点化している。 ・ 授業アンケートにて肯定率が低かった項目：問う力、探究心について →基礎基本の徹底、積み上げは出来ているが、受け身の学習になっていることが課題である。 ⇒活用型授業の推進：基礎基本を大切にしながら、それを活用する問いをバランスよく取り入れる。 授業研究：『問う力』を育成する授業の実践～構造化した「問い」を基にした活用型授業の推進～→今年度は授業研究の土台を作り、来年度以降実践・充実化していく予定である。 ・ 公開研究授業の動画視聴 イ. 進路指導部 ・ 2年生 1月進研模試 3教科の平均 59.4(概ね目標を達成) ・ 3年生 共通テスト全国平均5点以上上回る →国語のみプラス5点、下回る教科も出てきたため…D 〔要因〕共通テストへの対策が遅れた。 理系の上位者が少なかった。 コロナのため、様々な進路関係の行事がなくなった。 放課後補習をなくした。 希望者対象に補習を行ったが、巻返しまでには至らなかった。 共通テストの平均点80点以上 →目標の半数であった。(文系2割、理系1割)…C ・ 難関、医歯薬、広岡 受験予定46名が出願した…C ・ 〔改善策〕各教科の指導方法を再検討。 現3年生については、入学時から不安を抱える生徒が多かった。</p>		

家庭学習が増えているが、数字と反して成績に結び付いていない。

進研模試の推移：1年11月が下がったことが、原因であると考えられる。⇒課題を減らした時期と重なる。

#### ウ. 生徒指導部

生徒の意見も取り入れながら、主体的に活動に取り組む仕掛けを行った。

- ・ 体育祭への準備：8月までは応援リーダーを中心に準備  
9月から学年全体での練習へ  
衣装：ほぼ購入で対応，小さなアレンジを行った。  
生徒が主体的に行った。  
教員はアドバイスをしたのみ。  
団旗制作について
- ・ 体育祭当日：3年生の口上
- ・ 球技大会：各種目で生徒が主体的に取り組んだ。
- ・ 中庭パフォーマンス：文化祭の代わりに行った。  
→書道部，器楽部：生徒が楽しく，活動を発表をする場を設けた。
- ・ ハーフマラソン：校内25週を，襷でつなぐ（一人1回以上を走る）
- ・ チューター制度：4回実施  
校歌指導，3年生応援団からの講和，  
アイスブレイク⇒さいころトーク  
生徒会中心にすごろくゲーム（1年生から2年生に聞きたいこと）
- ・ 生徒会選挙：リモートで行う。ネットで投票を行った。

#### エ. ICT推進委員会

- ・ 1年生が1人1台のタブレットを持つことで，昨年度と比べて，より活用する場面が増えた。  
→来年度は1・2年生全員がiPadを用いるため，場面が増加する予定。
- ・ ICTを使う授業が増えた教員の割合約72%（目標80%以上）…C
- ・ 業務の効率化 15件（目標10件）…A
- ・ 来年度は，機器の管理・運用を行う部と，授業等での活用を推進する部に分けて対策を行う。

#### (3) 質疑応答

砂田：「1. 生徒が主体的に学ぶ力を育てる生徒が主体的に学ぶ」の項目について，3年生に関わる部分が課題であった。Dについて，校長はどのようにお考えか？

校長：（進研模試の推移の）折れ線グラフからもわかるように，入学してからの取組もしっかりやっているが，成果についてはDを付けざるを得ない。学校の努力には及ばない部分があった。人事異動で教員の3分1の異動があった。また，3年間の目標の立て方の難しさもある。年度ごとの目標にはできない。定員割れをしていたことなどもあり，この学年での目標として難しい部分があった。3年間の長期目標としてはDを付けざるを得なかった。

瀬戸：学校が楽しくないと感じている生徒について，iPadの使用が負担になっているのでは？

生徒指導部：「楽しくない」と答えた生徒が思ったよりも多かった。iPadについては，ICT推進委員会と生徒指導部が連携して行っている。iPadの使用については，初期から丁寧に指導を行っている。年度当初に，クラスづくりが丁寧にできなかったことや，人間関係で落ち込んでしまったことが要因として考えられる。

井上：大学入試への対応については，中学校の責任もあるのではないかと？栗原中の上位層は，尾道北に第一希望にする生徒もいる。もっと中学生・高校生が交流する場を設けてもらえると良いのではないかと？高校生が活躍

する場面を見る機会を復活させてほしい。部活動の交流（練習試合）なども含めて。

坂本：文化祭がせっかく公開になったのに、残念である。コロナが落ち着いたら、また公開してほしい。尾道市外に出なくても、市内で夢が実現できる高校であってほしい。また、ICTの活用が良く分かった。その中で、主体性を伸ばして行ってほしい。そのような力が、共通テストだけでなく、数年後に生きていく力に繋がっていくのではないか。

林原：共通テストをどのように分析しているのか？

進路指導部：数学については、「公式を覚えて、答えを求めるタイプの問題から、なぜそのようなものかを考える問題になっている。型にはめて解く問題に慣れている生徒には難しかったのではないか。対話的な問題にも触れていく必要がある。対話をしている2人の情景を思い浮かべていく必要がある。

#### (4) 学校運営協議会委員による評価

<休憩>

### 3 生徒による活動報告（生徒会）

#### (1) 発表（生徒会執行部）

ア. チューター制度（1～4回の報告）について：西山（生徒会副会長）

- ・ 生徒会執行部を中心に（生徒主体で）行いたい。
- ・ チューター制度の目標を明確化する。
- ・ 2年生から学習面や生活面のアドバイスをもらえた。新入生が、早く北高生になれるようにしていきたい。

イ. 学校行事について：坂井（前生徒会副会長）

- ・ 今年度：行事の縮小・中止→体育祭（無観客、ライブ配信、種目の変更）
- ・ 来年度：文化祭・体育祭を工夫して行いたい。
- ・ 応援リーダーをして学んだこと  
→リーダーとしての、言葉の選びに気を付けた。  
仲間の体調面と心のケアを心掛けた。  
仲間の団結、計画性も学べる良い機会である。来年度も盛り上げたい。
- ・ 部活動の発表の場を設けたい。

ウ. 学校生活について：川野（生徒会長）

- ・ 休憩時間など、時間を有効に使っている生徒が多い。
- ・ 目標を高く持っている。
- ・ 登下校のマナーほとんど守られているが、改善点すべき点もある。
- ・ 3年生に向けて：  
→アドバイスをもらいながら、生活スタイルを確立してきた。  
より勉学に向かう時期になる。より高い目標を持って取り組みたい。

#### (2) 質疑応答

林原：どのような文化祭をイメージしているか？

坂井：例年のような Show Time は難しいと思う。体育祭のように、リモートを活用し、全員が体育館にいなくてもできるようにしたい。

砂田：チューター制度は、尾道北らしさのある活動にして続けてほしい。

西山：ありがとうございます。

坂本：文化祭・体育祭をリードしていく経験は、大学生や社会人になってからも生かせるものだと思う。勉強面も頑張ってもらいたい。また、オンラインなどで配信してもらいたい。

井上：北高に入ってよかったことは？

西山：大きな目標を持って入ってきている人がいる。互いに高め合って取り組めることが、良いところだと思う。

井上：是非、栗原にきて（在校生に）話してほしい。

瀬戸：コロナもあるが頑張ってもらいたい。エールを送るばかり。

校長：北高の改善点とは？

川野：学習面については、充実していると思う。普段の学校生活について、アンケートを行い、「〇〇を買ってほしい」などの生徒の声を拾ってあげば、もっと良いと思う。

校長：一緒に頑張ろう。

#### 4 協議（司会：副会長）

学校評価アンケートより（主幹教諭）

- ・ 学校に来る機会が少なく、評価し辛い。
- ・ 学校の様子を情報配信してほしい。  
→HPの更新、広報活動『短信』  
→地域の方にも情報配信していく。  
→市役所での写真の展示、活動をアピールしていく。

坂本：行政の取組に高校生も参加してほしい。

「若者チャレンジ講座」夢を実現するために6回行う。（6年間実施している）  
コロナで難しい面もあるが、Webでの配信することになった。

市内の高校に案内をする。

地域で活動していることを発表する場を設ける予定である。

活動に加わってもらいたい。

教育研究部：連携先のピックアップまでは出来ているが、そこから進んでいないのが現状である。来年度こそは、若者チャレンジ講座も含めて、連携を取りたい。

瀬戸：PTAの配信を、学校のHPを活用して行いたい。可能なのかどうか？一般の方が北高のことを知る機会が増えるのではないかと？

事務長：広報委員会が積極的にやっていきたいと考えているところだったが、コロナの関係で動けていないのが現状である。PTAの体育祭のDVDは、学校とPTAが連携して作ったもの。

井上：アンケートの結果は、コロナの関係で、満足度が低くなっていると思う。

「気軽に相談できる場がある」の項目について、16%が否定的である。相談体制はどのようになっているか？

主幹教諭：SCに毎月来校してもらっている。相談できる場については、健康教育と連携して設定しているが、より話しやすい工夫がいる。周知も必要である。数年前と比較すると、肯定的な意見は増えている。

校長：生徒同士で話をする場を設けることも大切である。学校・教員と生徒が話をするオフィシャル場だけでなく、友だちや先輩と話ができる環境を作ることも必要である。チューター制もその発想からできている。生徒同士をつなげる仕掛けをしていく。日常的なセーフティネットを細かいものに出来るのではないかと考えている。

#### 5 閉会行事

##### (1) 会長挨拶

委員のメンバーに対して、学校の取組や生徒の実態を分かりやすく伝える工夫をしていただいた。校長先生を中心に、生徒ファーストで取り組んでほしい。